

「ストレージ・シェルフ ‘pala’

井生文隆

Storage Shelf ‘pala’

Fumitaka IO

新しい時代におけるデザインとは、「人」と「モノ」と「環境」の関係を、「価値の向上と持続性」を目的に、存在の必然性を追求し、全体の調和と調整に意を尽くす事が使命と考えている。

筆者は1996年に1年間フィンランド（国立ヘルシンキ芸術デザイン大学）に研究留学し、自然との暮らしの営みの中に培われ、「人」と「モノ」と「自然」の関わりを融合させて育んできたフィンランドデザインが有する「サステナビリティ」についての研究に成果を得たことにより、以降、自然と人間のニーズに関するデザイン活動をテーマとして取り組んできた。

1998年、ウイスキーの熟成に用いられる「樽」の廃材の有効利用に始まり、水質浄化の役割が重要視され、歴史的にも人間と深い関わりを持つ「葦」の可能性を探る提案、里山を侵食しつつあり、更に奥の方まで広がり森林の環境に悪影響を及ぼしている「竹」資源の活用プロジェクトなどを推進し、現在に至っている。

今回の作品は、2002年から萩商工会議所（山口県萩市）よりの受託研究の一環である。森の環境保全と密接な関わりを持つ「竹」を生活用品などに利用することで、「地域の産業創出・振興」、「地球環境とデザイン」の具体化をテーマとしており、更には、萩焼という異素材との組み合わせを図り、地域との関わりを訴求したデザインを表現した作品、STORAGE SHELF ‘pala’*を提案するものである。山口県特産の竹と地域の伝統産業である萩焼を組み合わせた商品の開発は、新たな市場と需要のフィージビリティを探ることをねらいとしている。

デザインの特徴は、竹合板の美しい質感の本体と

ブラック・ウォルナット材の高級感ある接合部とで構成されたボックス状のシェルフ、キャスター、萩焼製の構造ジョイント、ブラック・ウォルナット素材による円盤状のスペーサー、両面開きの扉などにより、空間演出のシステム展開を実現している。自由に様々な組み合わせができるデザイン、土と竹と木の融合との調和が図られ、シンプルではあるが暖かい雰囲気を醸し出すデザインが具現化されていると考える。

シェルフ部分の1unitのサイズは1200(W)×300(D)×200(H)mmである。

プロトタイプは、2006年3月22(水)－26日(日)の期間、山口市市民会館展示ホールにおける「flap展」で展示され、以降、LBファニチャー・ワークス（山口市大殿大路133-2）のショップにおいて参考ディスプレイされている。展覧会やディスプレイの反響としては、竹のテクスチャーの新しい魅力の表現に誰もが興味を示す点が特筆される点である。また、モダンなスペースでも、和の空間でも調和するデザインも評価を受けている。これからは新たに竹合板や地域の特産である素材を融合した様々な家具のデザインを展開していきたいと考えている。

今後の計画としては、竹を活用するデザインの展開を図ることにより、「地場の産業の活性化や文化の創造」を担い、「地球環境とデザインの関係の重要性」を啓蒙し、社会的に役立つことの研究を持続していく所存である。そして、その研究活動の成果により、テーマ目標を達成することへの貢献の一翼を担いたいと考える。

* ‘pala’ はフィンランド語で「個」という意味



1個のユニットが、竹合板の美しい質感の本体とブラック・ウォルナット材の高級感ある接合部とで構成されたデザイン。キャスター、萩焼製のジョイント、両面開きの扉などにより、空間演出のシステム展開を具現化したファニチャー。

"pala" STORAGE SHELF 1200(W)×300(D)×200(H)mm / 1unit

接合部にキャラクターを持たせたストレージ・シェルフ / 制作協力：平川和明 (LB ファニチャーワークス)